

平成 2 5 年度
公立大学法人 業務実績評価書

平成 2 6 年 8 月
福岡県公立大学法人評価委員会

目 次

年度評価の考え方	1 ページ
各法人の評価		
1 公立大学法人九州歯科大学		
(1) 全体評価	3 ページ
(2) 項目別評価	4 ページ
2 公立大学法人福岡女子大学		
(1) 全体評価	7 ページ
(2) 項目別評価	8 ページ
3 公立大学法人福岡県立大学		
(1) 全体評価	13 ページ
(2) 項目別評価	14 ページ

年度評価の考え方

1 項目別評価（中期目標項目別評価）

評価委員会は、法人から提出された業務実績報告書等を基に、業務の実績等について調査・分析を行う。

これらの調査・分析を踏まえ、中期目標の項目（教育、研究、社会貢献、業務運営、財務、評価及び情報公開）ごとに、中期目標

- ・中期計画の達成に向けた業務の進捗状況及び特記事項の内容を総合的に勘案して、5段階で評価する。

5：中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。

4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。

3：中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる。

2：中期目標・中期計画の達成のためにはやや遅れている。

1：中期目標・中期計画の達成のためには重大な改善事項がある。

2 全体評価

中期目標項目別評価を踏まえ、中期目標・中期計画の進捗状況全体の総合的な評価を記述式で記載する。

また、必要がある場合は、組織・業務運営等に係る改善すべき事項を記載する。

※ 評価委員会の評価は、各法人が中期計画において設定した業務実施の計画や達成目標等を踏まえて行なったものであり、法人間の相対評価をしめすものではない。

公立大学法人九州歯科大学

I 全体評価

平成18年度に法人化した公立大学法人九州歯科大学は、理事長のリーダーシップの下、法人化のメリットを活かした取組を積極的に進め、教育研究等の充実及び主体的・自律的な大学運営に努めてきたところである。

九州歯科大学は、平成24年度から第2期中期目標期間（平成24年4月1日から平成30年3月31日まで）に入り、2事業年度目を迎えたところであるが、設立団体である福岡県が定めた中期目標において、歯科保健医療の高度な専門的知識・技術を教授するとともに、患者の痛みを理解し、円滑な意思疎通ができる能力を身に付け、歯科保健医療の分野において活躍する優秀な医療人を育成することを最も重要な使命としている。

平成25年度の評価にあたっては、前年度評価において指摘した事項の改善状況を確認するとともに、これまでの業務実績も踏まえ、第2期中期計画の達成に向け、年度計画を着実に実施しているかという視点から、当該年度の業務実績評価を実施した。

評価の結果、中期目標項目6項目中4項目（研究、社会貢献、業務運営、評価及び情報公開）について「順調に進んでいる」、2項目（教育、財務）について「おおむね順調に進んでいる」と評定した。

また、中期目標に掲げている重点事項については、学生の歯科医療人としての自覚を促し継続するため、初年次から6年次までの全体的なカリキュラム改編に着手するなど着実に取り組んでいる。

以上のことを踏まえ、公立大学法人九州歯科大学の平成25年度の業務実績については、中期目標・中期計画の達成に向けて、全体としてはおおむね順調に進捗していると認められる。

歯科医療の高度化や高齢化社会の進展等、歯科保健医療を取り巻く環境や社会的ニーズが変化する中、公立大学としての役割を踏まえ、教育研究はもとより社会貢献の充実に向けた取組を更に推進されることを期待する。

Ⅱ 項目別評価（中期目標項目別評価）

1 教育

評価	3：中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる。
----	---------------------------------

教育については、進捗が遅れている項目も認められるが、全体的にはおおむね計画どおりに進捗していることから、総合的に判断し、3と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- (1) 地域の歯科保健医療に貢献する歯科医師及び歯科衛生士の育成
 - ・ 歯科医療人としての自覚を促し持続するため、初年次から6年次までの全体的なカリキュラム改編に着手した。
 - ・ 歯科医師国家試験対策として、臨床実習技術指導の充実やチューター制度の活用を図っているが、平成25年度の歯科医師国家試験合格率が全国29大学中11位と低下（平成24年度2位）しており、合格率の高水準の回復に向け、原因分析と対策に取り組む必要がある。
 - (2) 特色ある大学院教育による優れた教員・研究者の育成
 - ・ 口腔保健学専攻修士課程を設置申請し、設置の認可を受けた。
 - ・ 大学間連携共同教育推進事業において、4大学間での単位互換協定を締結した。
 - (3) 教員の教育力の向上
 - ・ ワークショップの開催、評価システムの確立などFD（※）の推進に努めている。
- ※FD（ファカルティ・ディベロップメント）
教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取組の総称
- (4) 適性のある優秀な人材の確保
 - ・ 模擬講義の実施等高大連携に取り組むとともに、高校訪問等の入試広報活動も積極的に実施し、歯学科、口腔保健学科ともに志願倍率が目標を上回っている。

(5) 学生への支援

- ・口腔保健学科の就職活動を支援するため、学生との面談やセミナー開催を行った結果、民間企業や病院への就職等成果があった。

2 研究

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

研究については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。
評価する点は、以下に示すとおり。

- ・科学研究費補助金の採択率が高くなるとともに、獲得件数も目標を大きく上回っており、外部研究資金を積極的に獲得している。

3 社会貢献

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

社会貢献については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。
評価する点は、以下に示すとおり。

- ・新たに海外6大学と学術交流協定を締結し、海外の大学との連携を推進していることを高く評価し、今後の活動に大いに期待する。

4 業務運営

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

業務運営については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。
評価する点は、以下に示すとおり。

- ・事務局機能の強化に向けて、プロパー職員を採用するとともに、外部研修会への職員派遣を行った。
- ・附属病院の診療科の業務改善を行い、待ち時間の短縮を図った。

5 財務

評価	3：中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる。
----	---------------------------------

財務については、年度計画を着実に実施しているものの、目的積立金を取り崩して収支の均衡を図る厳しい財政状況が続いていることから、3と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・外部研究資金に加え、教育等に関する外部資金の獲得により、目標を上回る収入実績をあげている。
- ・附属病院について、入院収益が回復しているものの、収支の改善が小幅にとどまっており、目的積立金の取崩しによって収支の均衡を図る厳しい財政状況が続いていることから、引き続き入院収益の増加を図るとともに、経費削減対策等を講じ、早急な改善を図る必要がある。

6 評価及び情報公開

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

評価及び情報公開については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・大学ホームページ等で教育研究情報を適切に公開している。
- ・平成26年の創立100周年を活用した記念事業の実施により、大学情報を広く発信できた。

公立大学法人福岡女子大学

I 全体評価

平成18年度に法人化した公立大学法人福岡女子大学は、理事長のリーダーシップの下、法人化のメリットを活かした取組を積極的に進め、教育研究等の充実及び主体的・自律的な大学運営に努めてきたところである。

福岡女子大学は、平成24年度から第2期中期目標期間（平成24年4月1日から平成30年3月31日まで）に入り、2事業年度目を迎えたところであるが、設立団体である福岡県が定めた中期目標において、時代や社会の変化に柔軟に対応できる豊かな知識と確かな判断力、しなやかな適応力を持ち、アジアや世界の視点に立って、国内はもとより、海外の国や地域において、より良い社会づくりに貢献することのできる女性を育成することを最も重要な使命としている。

平成25年度の評価にあたっては、前年度評価において指摘した事項の改善状況を確認するとともに、これまでの業務実績も踏まえ、第2期中期計画の達成に向け、年度計画を着実に実施しているかという視点から、当該年度の業務実績評価を実施した。

評価の結果、中期目標項目6項目中5項目（研究、社会貢献、業務運営、財務、評価及び情報公開）について「順調に進んでいる」、1項目（教育）について「おおむね順調に進んでいる」と評定した。

また、中期目標に掲げている重点事項については、国際的な学習環境を提供するために、海外有力大学への交換留学や海外語学研修への学生派遣、外国人留学生の受入を積極的に行うなど着実に取り組んでいる。

以上のことを踏まえ、公立大学法人福岡女子大学の平成25年度の業務実績については、中期目標・中期計画の達成に向けて、全体としてはおおむね順調に進捗していると認められる。

福岡女子大学は、平成23年度に国際文理学部を開設し、新しい時代にふさわしい大学づくりに向けた改革に全力で取り組んでおり、一定の成果がみられる。

今後とも理事長のリーダーシップの下、全教職員が大学の理念の実現を目指し、一丸となって実効性の高い改革を進められることを期待する。

Ⅱ 項目別評価（中期目標項目別評価）

1 教育

評価	3：中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる。
----	---------------------------------

教育については、進捗が遅れている項目も認められるが、全体的にはおおむね計画どおりに進捗していることから、総合的に判断し、3と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

(1) グローバル化時代に求められる基盤的・実践的な能力を養成する学部共通の教育

- ・学生による研究成果発表会を全クラスで実施するなど、ファーストイヤー・ゼミ教育の充実を図るとともに、新たに遠隔講義を導入するなど双方向授業にも取り組んだ。
- ・留学生の受入を進めるとともに、交換留学、海外体験学習、語学・文化研修等に多くの学生を海外に派遣したこと、イングリッシュ・ビレッジ参加者数等が目標を上回ったことを評価する。
- ・「国際学友寮 なでしこ」での全寮制教育において、イングリッシュ・デイの実施等学生が主体的に寮運営に取り組んでいる。

(2) グローバル社会の課題に対応した各学科の教育

- ・TOEFL 対策講座の増設等、英語コミュニケーション能力の養成を図っているが、目標達成者（TOEFL550点以上）が少数にとどまる状況にあることから、更なる取組が必要である。
- ・栄養・健康関連の海外研修（体験学習）プログラムを新たに実施した。
- ・管理栄養士国家試験合格率が、高水準を維持している。

(3) 大学院教育

- ・国際文理学部の教育研究を発展・深化する新しい大学院研究科の設置に向け、準備を進めている。

(4) 教員の教育能力の向上

- ・FD (※) の推進に努めており、授業アンケート結果の公表、公開授業を実施している。

※FD (ファカルティ・ディベロップメント)

教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取組の総称

(5) 意欲ある学生の確保

- ・高校訪問、出前講義、オープンキャンパスの開催等、入試広報活動に積極的に取り組んでいる。

(6) 学生支援の充実

- ・企業訪問や就職対策講座開催等により、就職率が97.5%と過去10年で最高となった。

2 研究

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

研究については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。
評価する点は、以下に示すとおり。

- ・「国公立大コンソーシアム・福岡」や「アジア地域大学コンソーシアム福岡」等大学間連携の枠組みを活用した公開講座や共同研究を通じて、国内外の大学との学術交流を積極的に実施している。

3 社会貢献

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

社会貢献については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。
評価する点は、以下に示すとおり。

- ・ 出前講義や高校生イングリッシュ・キャンプなど大学のシーズを活かした教育支援を積極的に実施し、出前講義件数が目標を大きく上回った。
- ・ 「アジア地域大学コンソーシアム福岡」の共同研究関係の受入・派遣教員数が目標を大きく上回ったことを評価する。
- ・ 入試方法の改善等により私費外国人留学生の出身国数も4か国（中国、韓国、ベトナム、マレーシア）となったことを評価する。
- ・ 留学フェアやイングリッシュ・ビレッジ等在校生の海外志向を高める取組を実施している。

4 業務運営

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

業務運営については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。
評価する点は、以下に示すとおり。

- ・ 事務局機能の強化に向けて、プロパー職員を採用するとともに、職員の英語力や国際化対応能力の向上を図るため、英語研修の実施や海外大学への短期派遣制度を創設した。

5 財務

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

財務については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。
評価する点は、以下に示すとおり。

- ・外部研究資金に加え、教育等に関する外部資金の獲得により、目標を上回る収入実績をあげている。

6 評価及び情報公開

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

評価及び情報公開については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・大学ホームページ等で教育研究情報を適切に公開するとともに、ホームページを全面的にリニューアルし、利便性や見やすさの向上を図っている。

公立大学法人福岡県立大学

I 全体評価

平成18年度に法人化した公立大学法人福岡県立大学は、理事長のリーダーシップの下、法人化のメリットを活かした取組を積極的に進め、教育研究等の充実及び主体的・自律的な大学運営に努めてきたところである。

福岡県立大学は、平成24年度から第2期中期目標期間（平成24年4月1日から平成30年3月31日まで）に入り、2事業年度目を迎えたところであるが、設立団体である福岡県が定めた中期目標において、人間社会学部と看護学部の連携のもと、関連する分野に関する幅広い視野を持ち、保健・医療・福祉の現場で中核となって活躍できる資質を持った優秀な職業人を育成することを最も重要な使命としている。

平成25年度の評価にあたっては、前年度評価において指摘した事項の改善状況を確認するとともに、これまでの業務実績も踏まえ、第2期中期計画の達成に向け、年度計画を着実に実施しているかという視点から、当該年度の業務実績評価を実施した。

評価の結果、中期目標項目6項目中4項目（研究、社会貢献、業務運営、評価及び情報公開）について「順調に進んでいる」、2項目（教育、財務）について「おおむね順調に進んでいる」と評定した。

なお、前年度の評価において進捗の遅れを指摘した業務運営に係る事項については、指摘を踏まえ改善に取り組んでいることを確認した。

また、中期目標に掲げている重点事項については、不登校・ひきこもりサポートセンターでの相談・支援事業、ひとり親家庭の学習支援等、社会貢献活動を積極的に実施するなど着実に取り組んでいる。

以上のことを踏まえ、公立大学法人福岡県立大学の平成25年度の業務実績については、中期目標・中期計画の達成に向けて、全体としてはおおむね順調に進捗していると認められる。

福岡県立大学は、これまでに地域と連携した取組で着実な成果をあげてきている。

今後とも地域との連携のもと社会貢献活動等に積極的に取り組むとともに、大学の理念の実現を目指して、教育研究をはじめとした業務の充実・改善に向けた取組を更に推進されることを期待する。

Ⅱ 項目別評価（中期目標項目別評価）

1 教育

評価	3：中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる。
----	---------------------------------

教育については、進捗が遅れている項目も認められるが、全体的にはおおむね計画どおりに進捗していることから、総合的に判断し、3と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

（1）教養教育の充実

- ・グローバル化に対応するために、教養演習英語クラスの開設を決定するなど語学教育の充実に取り組んでいる。

（2）専門教育の充実

- ・実習教育の充実の新たな取組として、子どもコース学生交流会を企画・実施した。
- ・老年看護専門看護師コースの認定審査申請が遅れるなど高度な看護専門職教育の充実の取組に若干の遅れがある。

（3）教育効果を検証するシステムの構築

- ・精神保健福祉士、助産師等の各種国家試験合格率が、高水準を維持している。

（4）教員の教育能力の向上

- ・教員間の授業参観システムを実施するなど、FD（※）推進に努めており、大学院教員のFD研修会の参加が100%となった。

※FD（ファカルティ・ディベロップメント）

教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取組の総称

(5) 優秀な学生の確保

- ・オープンキャンパスの開催や入試説明会への参加等、入試広報活動への取組を積極的に行っているが、志願倍率は低下しており、原因分析と対策に取り組む必要がある。

(6) 学生支援の充実

- ・マイキャリアポケット（社会貢献活動記録帳）を活用したインターンシップの単位認定を正規の授業として実施するなどキャリア形成支援の強化に努めている。

(7) 学習環境の充実

- ・ラーニングコモンズについて、学生からのニーズが高いことを踏まえ設置した。

(8) 人間社会学部の改革

- ・学内プロジェクト会議による検討を進め、改革案を作成した。

(9) 両学部連携の大学院博士課程の新設

- ・ワーキンググループによる検討は進めているものの、新設案の策定に至らなかった。

2 研究

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

研究については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。評価する点は、以下に示すとおり。

- ・科学研究費補助金の応募率が目標を上回るなど、外部研究資金獲得を積極的に進めている。

3 社会貢献

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

社会貢献については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。
評価する点は、以下に示すとおり。

- ・不登校・ひきこもりサポートセンターでは、サポーター派遣延べ人数が過去最高を達成するなど、不登校・ひきこもり対策を積極的に行っていることを評価する。
- ・地元商店街の交流拠点を活用したひとり親家庭の学習支援、大学生災害ボランティアサポーター養成研修修了者の被災地派遣等地域や行政と連携した新たな取組を開拓した。
- ・リカレント教育の総参加者数が昨年度実績を上回った。
- ・山本作兵衛コレクションが国際アーカイブス講演で大学の業績として紹介された。

4 業務運営

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

業務運営については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。
評価する点は、以下に示すとおり。

- ・事務局機能の強化に向けて、プロパー職員を採用するとともに、外部研修会への職員派遣を行った。
- ・教員表彰制度を創設し、教員表彰募集要領を定め、ベストティーチャーを選定した。

5 財務

評価	3：中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる。
----	---------------------------------

財務については、年度計画を着実に実施しているものの、財政状況は引き続き厳しい状況であり、目的積立金の取崩しによって収支の均衡を図っていることから、3と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・外部研究資金に加え、教育等に関する外部資金の獲得により、目標を上回る収入実績をあげている。
- ・財政状況は引き続き厳しい状況であり、目的積立金の取崩しによって収支の均衡を図っていることから、経費削減対策等を講じ、早急な改善を図る必要がある。

6 評価及び情報公開

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

評価及び情報公開については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・大学ホームページ等で教育研究情報を適切に公開するとともに、「プレ・インターンシップ」の授業の様子等教育プログラムにおける特色ある取組についてホームページで広報している。